

講習名	幼稚園教育における保育内容の充実 - 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえて -	
時間数	18時間	
受講対象者	幼稚園教諭	
担当講師	小林 孝子、田中 敬子、崎元 りずみ、金谷 公子、柳楽 節子、 井上 朋子、福田 規秀、杉田 律子	
講習の概要	講習Ⅰ	<p style="text-align: center;"><b>主体的に遊ぶ子どもをめざして</b></p> <p>幼児期は、人との関わりの中で他者理解深め、自己肯定感を培っていく重要な時期です。少子化、情報化等で直接体験が減少している中、子どもたちの心の育ちを大切に保育する必要があります。遊びを通して、思いの違いから発生するいざこざや葛藤体験を重視し、一人一人の心の揺れにしっかり向き合い、必要な援助をすることが心の育ちを促すことになります。</p> <p>そこで、本講習では、自分らしさを発揮し、主体的に遊ぶ子を育てるためにどのような経験をし、望ましい環境と援助が必要か、保育のエピソードから考えていきます。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：小林 孝子〕</p>
		<p style="text-align: center;"><b>子どもと音楽表現①</b></p> <p>トーンチャイムを使って、曲選びから実際に演奏するまでの手順やポイントを理解したうえで、練習、演奏の仕上げをします。呼吸を合わせること、音をよく聴くことなど、協調性の大切さを再確認して頂きます。</p> <p>うまく作業や演奏ができない時は、その問題点を見つけ、解決法を探る等、保育現場でも柔軟に対処できることを目指します。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：田中 敬子〕</p>
		<p style="text-align: center;"><b>子どもと音楽表現②</b></p> <p>鍵盤ハーモニカを使ってアンサンブルをします。ペアやグループ演奏をすることで音楽をコミュニケーションと捉え、音楽表現の幅を広げていきます。また、小物楽器など身近な楽器を入れた器楽合奏をし、アンサンブルの楽しさを体験していただきます。保育現場で、音楽を通して子どもたちの豊かな感性を育むことにつながっていったらと思います。</p> <p>※鍵盤ハーモニカをご持参ください。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：崎元 りずみ〕</p>

<b>講習の概要</b>	<b>講習 II</b>	<b>子どもの表現と幼児教育</b>
		<p>幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」に示されたことについて現代の子どもの生活環境を踏まえて改めて省察する。子どもの表現活動において教師は何をねらい、どのような教育環境を創造するのか、そして子どもの表現を受容し、活動を支えるために教師に何が求められるのか。これらを主に保育の工夫と実践について事例等を入れながら考え、これからの教育方法について創造し、現場での実践、指導力の向上につなげていきたいと思ひます。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：金谷 公子〕</p>
		<b>子どもと造形表現①</b>
		<p>創造性豊かな人を育むために、幼児期における造形表現は大きな役割を担っています。保育者は子ども・保育に関する専門的知識と、造形表現活動への関心の両方を持ちながら、いかに楽しく創造的な表現の“場”を創り出すことができるか、その力量が試されているといえます。</p> <p>この講習では、シルクスクリーンプリント、立方体の組み立て、彩色とコラージュ等の技法を使いながら、最終的に平面作品を制作します。版の体験、素材を生かす技術、イメージを絵にする力、色彩感覚等を駆使し、柔軟な発想で、創造性をどこまで発揮することができるか、楽しみながら制作を試みていただきたいと思ひます。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：柳楽 節子〕</p>
		<b>子どもと造形表現②</b>
		<p>五感を媒介にした様々な造形活動を行います。例えば、音や匂いのイメージを絵で表したり、色や形を声や動きで表したりする活動を取り入れます。心や身体をひらくとともに、五感や想像力を十分に働かせること、最終的には受講生ご自身の感性を磨くことを目的としています。と同時に、日々の保育指導への活かし方を模索していただけたらと思ひます。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：井上 朋子〕</p>

<b>講習の概要</b>	<b>講習Ⅲ</b>	<b>乳幼児期に育みたい資質・能力の明確化とその実践について</b>
		<p>少子高齢化が進む中、日本の存在感の低下が懸念されたり、グローバル化や情報化の進行により、職業等のあり方も現在とは比較にならないような変貌を遂げるかもしれないと言われています。幼児教育・保育の世界では、こうしたことに対処できるよう、子どもたちの日常生活の中で、生きる力の基礎を培おうとしています。現在進行中の幼稚園教育要領や保育所保育指針の改訂作業では、こうした視点をもう少し具体的にし、子どもたちをしっかりと支えていこうとしています。それを概観することで、先生方の現状にもその視点を取り入れてもらえるようにし、現在の教育・保育実践に資するものになれば幸いです。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：福田 規秀〕</p>
		<b>障害理解と障害理解教育</b>
		<p>特別支援教育においては、保育者が障害のある子どもを理解し適切な支援を行うと同様に、クラス子どもに対して障害について適切な説明をし、支援していくことが大切です。</p> <p>そこで、本講習では子どもの発達過程について改めて理解を深めるとともに、障害の基礎的事項を学んで障害理解を目指すとともに、子どもたちの障害理解を促進するための教育方法を学び、事例を通して支援の在り方について考えることを目的とします。</p> <p style="text-align: right;">〔担当：杉田 律子〕</p>
<b>評価方法</b>	<p>3日間3講習（10項目）の筆記・実技試験の成績により評価します。</p> <p>各講習の合計点が100点満点となる成績評価を行い、60点以上を合格とし、履修認定を行います。</p>	

成績評価 の観点	講習Ⅰ	主体的に遊ぶ子どもをめざして
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に受講できたか。</li> <li>・講義の内容について理解できたか。</li> <li>・一人一人の子どもに応じた援助について考えることができたか。</li> </ul>
		子どもと音楽表現①
	講習Ⅱ	子どもと音楽表現②
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆と協力しながら作業、練習ができていますか。</li> <li>・楽譜を理解できているか。</li> <li>・演奏及び演奏までの過程を理解し、楽しむことができていますか。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を理解できているか。</li> <li>・互いの音を聴き合い、アンサンブルを楽しんでいるか。</li> </ul>
	講習Ⅲ	子どもの表現と幼児教育
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な表現活動の指導について考察できたか。</li> <li>・表現する意味について、理解を深められたか。</li> <li>・様々な表現活動を豊かにするための保育内容を考えられたか。</li> </ul>
		子どもと造形表現①
	講習Ⅲ	子どもと造形表現②
<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作することに意欲的に取り組んだか。</li> <li>・柔軟に発想することができたか。</li> <li>・素材と技法に関心を持ち、工夫することができたか。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な造形活動に対して、意欲的に取り組んでいるかどうか。</li> <li>・イメージを膨らませ、自分なりに工夫することができているかどうか。</li> <li>・思いや意図をもった表現ができているかどうか。</li> </ul>		
使用する 教材等	全講習	必要に応じて資料を配付する。